

いたちかわらばん

通刊67号

鮠川・狹川 / 川原番・瓦版

'14 秋号



【版画 宗森英夫】

巡礼供養塔のある休憩所（天神橋上流）

いたち川まつり

八月二四日に栄区役所裏の大いたち橋・小いたち橋付近で第二回「いたち川まつり」が開催され、六〇〇人の参加者で賑わいました。区内各地の祭りが盛んな時期でお忙しい中、尾仲区長と塗師地域振興課長にもお越しいただき、栄区のシンボルリバーに多くの区民が集い楽しく交流する様子をご覧いただきました。

まずは参加者による遊歩道の清掃を行い、その後いかだ遊びの始まりです。川面から見上げる景色には普段とは違った趣があり、いたち川の良さを再発見できます。今年新たに浮かべたビニールの馬が子ども達に人気で、昨年から始めたカヤック同様、順番待ちの長い行列が出来ていました。竿の先に付けたパンに食らいつくコイとの引張り合いは、子どもと一緒に夢中になって遊ぶお父さんの微笑ましい姿も印象的でした。また、かつら工房のパンに加え、今年は神奈川県災害ボランティアステーションの鯛焼きが登場しました。他にもヨーヨーや金魚釣り、スーパーボールすくいなど色々なコーナーがあり、暑さに負けず元気に遊び回る子ども達からパワーを分けてもらえます。

このイベントは川遊びを通して「いたち川」の魅力を知り大切にいく気持ちや育むことをねらいとして、いたち川水辺愛護会、いたち川と親しむ会をはじめ、地区社協、子ども会、青少年指導員、スポーツ推進委員、警察学校、本郷中学校、その他多くのボランティアにより企画・実施されています。いたち川を愛する人達が増えていくことを願いつつ、来年は更に盛り上げていきたいと思っています。

いたち川まつり実行委員会委員長 橋本哲芳

いたち川月間イベントレポート 横浜自然観察の森で（7月13日）

～ながくら子ども環境学習11th～

長倉町小川アメニティから横浜自然観察の森へ、散策路に沿って観察センターまでの森の観察会です。案内と指導は、横浜自然観察センターのレンジャーの瀧本宏昭さん（愛称：タッキー）にいただきました。

森に入って早速、「コクスギ」という木のつやのある葉の匂いを嗅ぎ、ミカンの仲間の木ということを知りました。川の生きもの探しをするため、ふだんは森の生きものを勝手につかまえてはいけませんが、特別に観察センターにより魚などが入る築（やな）というのを沈めておいてもらいました。「アブラハヤ」2匹、「テナガエビ」1匹が獲れました。子どもたちはアブラハヤを手でつかまえ、ヌルッと脂っぽいのでこの魚の名前がつけられたわけを納得したようでした。

また、シジミやトンボの幼虫のヤゴなど複数を集めた後、トレーに移して観察し、生きものにより体長の計り方がそれぞれ異なることを教わりました。それから、そっと川に逃がしました。

クスノキの葉を好んで食べるアオスジアゲハが飛んできました、子どもたちはクスノキの葉の匂いを嗅ぎました。笛笛や草笛も音を出せるようになりました。観察センター内では、鳥の鳴き声の聴ける本や、紙芝居などで面白く学習しました。

参加者は子ども6名、大人13名でした。機会あるごとに、子どもたちがこれから生きていくために科学ほか多くの知識と知恵が必要になることを知ってほしいと思います。

（長倉町小川アメニティ愛護会事務局・佐藤信夫）



観察センターのタッキーさんの指導で、「水辺の生き物」探しをしました。

公開講座「いたち川サミット」開催 ～富山いたち川との交流会～

富山市にも「いたち川」が流れているのをご存知でしょうか。河川の長さは14.9kmで、松川を經由して神通川に流れます。昔は薪や魚などの運搬に利用され、暮らしに密着した川でした。現在は街の中を流れ、両岸には桜・柳の並木とたくさんのお地蔵さんがあり、住民の方々が大切に守っています。

「タッチー倶楽部」では毎年いたち川に関する区民講座を開催しており、今年は富山市から講師を招いての公開講座を開催します。

日頃いたち川に関わる方、いたち川を愛する方など、みなさん奮ってご応募ください！

- 日時：11月7日（金）10:00～12:00
- 会場：あーすぶらざ大会議室
- 講師：富山市立図書館館長 加藤 達行
- 主催：タッチー倶楽部

【募集要項】

- ◇受講料：500円
- ◇定員：35人（応募者多数の場合は抽選）
- ◇応募方法：往復ハガキに氏名（ふりがな）、郵便番号、住所、電話番号、「11月7日公開講座希望」と書いて下記に申込み
- ◇申込先：〒247-0014 栄区公田町1632 「タッチー倶楽部」高田宛
- ◇申込期間：10月1日（水）～20日（月）
- ◇問合せ先：高田 891-6425 / 中村 893-5147



富山市の街の中を流れるいたち川

発行：狹川OTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKE隊事務局・栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ケ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
（お便り・お問い合わせはこちらまで）

発行年月
2014年9月

通刊67号

切り取り線

この部分を切り取ってファイルすると便利です



栄区内の小学校の先生による理科研究会

8月18日（月）、栄区上郷小学校で区内の小学校の先生20名による理科研究会が開催されました。研修には、「いたち川 OTASUKE 隊」から2名の隊員が参加して、「いたち川の自然との共存」について1時間にわたって講演を行いました。

その後いたち川沿いを本郷小学校まで現地を歩いて説明を行いました。机上では、映像を使って20数年前の汚濁されたいたち川からどの様にして自然を取り戻したか等、河川の構造や区民との関わりについて説明されました。現地踏査では、河川の構造によって水の流れに変化を与えて微生物の繁殖を促すなど、「河川は水の再生工場」であることや、いたち川特有の野鳥や植物を紹介して、今後の環境学習の参考になることを願って解散しました。

先生方から、いたち川の上流、中流、下流部の各学校での子供との関わり合いの記事が寄せられましたので紹介します。 (水・人・子)



上郷小学校での講習風景（上）
いたち川河川敷での現地踏査風景（下）



上流域の庄戸小学校 平野 大二郎 先生

庄戸小学校は、いたち川の源流に位置し、大変自然に恵まれた地域にあります。放課後には子どもたちが釣竿をもって昇竜橋や上郷地区センターに集まり、魚やザリガニ釣りなど川遊びに夢中になっています。

この環境を、本校の教育課程にも取り入れ、低学年の「まちたんけん」や3年生の総合的な学習の時間、5年生理科の「流れる水のはたらき」の単元での臨地実習など、様々な場面でいたち川とふれあう機会を設けています。また、年度によってはクラブ活動で魚釣りや生き物の観察をしたり、4年生理科の「季節と生き物」の単元で年間を通じた観察活動を行ったこともありました。さらに、横浜自然観察の森のレンジャーさんをお願いをして、出前授業をしていただいたこともあります。

このような教育活動は、日頃から川遊びを楽しんでいる子どもたちだけでなく、普段は室内遊びを好む子どもたちにとっても、自然とふれあい生き物の面白さや川の豊かさに気付くきっかけにもなっています。

先日、栄区小学校理科教育研究会で取り組んだ授業では、自分たちが知っている昇竜橋付近の上流域だけではなく、下流域までのいたち川の様子を知りました。流域によって様子が異なることから、生き物や流れる水のはたらきについて興味を広げていました。今後の学習活動を通じて、土地のつくりについてだけでなく、いたち川そのものにも関心を持ち、自分のまちの自慢として、大切にしていける気持ちを育てていきたいと思っています。

川で遊んでいる子どもたちを見かけたら、温かく見守り、ときには声をかけてください。よろしくお願いします。

ヘチマの名前の由来は？

地球温暖化の影響か、今年も猛暑の夏でしたが、皆様どのように暑さをしのぎましたか？栄区では、節電と自然の涼風を部屋に呼び込む効果を促すグリーンカーテンを普及する運動を数年前から行ってきました。最近では区内の学校や事業所などでグリーンカーテンを施した窓を見た方は多いと思います。

私がお子さんのころ、夏になれば田舎の家の軒先には棚を造り植物を這わせて、その下にえん台を置き、そこでスイカやウ

中流域の本郷小学校 町田 俊一 先生

本郷小学校は、いたち川の真横に位置しており、本郷小の子どもたちは登下校時や放課後に、日常的に川に親しんでいます。

学習活動としては、低・中学年の子どもたちが、近隣の六反町公園に「まちたんけん」へ行き、葉っぱ舟を流したり、ザリガニをつかまえたりして楽しく活動しています。大きな亀や小魚の群れなどを見つけると、みんな大盛り上がりです。

高学年ともなると、4年生では「安全な町」、5年生の「流れる水の働き」、6年生は「土地のつくりと変化」といったように、日々の生活や地域と結びついた学習に取り組むようになります。このような学習はテレビやインターネットなどの映像資料に頼ることが多いと思いますが、本郷小ではいたち川を活用することができるので、子どもたちは身近な問題として意欲的に活動しています

先日行った5年生「流れる水の働き」では学習に先立って、まず全員でいたち川の川原に行って、川の流れをじっくりと観察しました。教室に戻り大雨が降った際の川の様子をビデオで見て、意見を出し合いました。普段はのどかなイメージのいたち川も、一度増水すると「怖い」と感じるような力を持っていることを知り、「人間なんか、あつという間に流されちゃうね。」「学校大丈夫かな?」といった実感のこもった意見がたくさん出されました。

これからも素晴らしい環境を活かして、子どもが目を見守り、時間を忘れて没頭するような学習活動を展開していきたいと思っています。

下流域の西本郷小学校 寺田 真一 先生

いたち川と柏尾川の合流地点の少し上流に西本郷小学校があります。学区にいたち川が流れているので、いたち川は子どもたちにとって身近な川となっています。放課後には、いたち川公園近くの溜まりでザリガニ釣りや川に入って遊ぶ子どもたちを見かけることもあります。川には鯉が泳いでいたり、カメが甲羅干しをしていたりします。川の周りには、遊歩道があり散歩する人やカワセミの写真を撮る人などを見かけます。5年生の理科の教科書には、西本郷小近くのいたち川の写真が掲載されています。

授業の取り組みでは、社会・理科・総合などでいたち川を活用してきました。2年生の「まちたんけん」では、街の中を流れる川を確認しました。4・6年生の総合では、いたち川を題材とし、栄区の総合の授業研究会で発表をしたこともありました。特に、4年生はいたち川に何回も行き、ふれあうことで川に棲む生き物や自然について学ぶことができました。

このような授業を通して、子どもたちはいたち川の将来や未来の地域について考えることができました。遊ぶことのできる場所や生き物がいる場所、「いたち川」があることが、ありがたいことであると気づきました。

本校では以上のような活動を続けていくことで、子どもたちにとっていたち川が大切な川であることに気づき、これから自分たちがどのようにしていかなければならないかを考えさせていきたいと思っています。また、日本や世界の自然や環境についても、思いや考えを巡らせ、行動できるようになってほしいと思っています。

